

## 【議事録】第7回技術委員会（要旨）

開催日時：2018年2月2日（金） 13：00～15：00

開催場所：IRID 本部第1会議室

出席者：

技術委員：岡本委員長、浅間委員、瀧口委員、朽山委員

技術アドバイザー：鈴木アドバイザー、横井アドバイザー、

IRID：石橋理事長、新井副理事長、川村専務、藤原理事、清浦研究管理部長、  
奥住開発計画部部長、川村研究管理部部長、安達研究管理部部長、  
鵜原開発計画部部長

オブザーバ：桑原執行役員、赤澤審議役（以上 NDF）

議事概要：

1. 石橋理事長挨拶の後、資料確認が行われた。
  2. 前回議事録が確認された。
  3. 平成 29 年度の活動状況として、資料に基づき、研究開発マネジメントの改善状況、I D R での審議内容（原子炉格納容器内部調査技術、原子炉格納容器漏えい箇所の補修技術の開発、燃料デブリ収納・移送・保管の技術）、前回ご指摘事項対応状況について説明、討議がなされ、下記のコメントをいただいた。
- 研究開発マネジメントの状況は大きく改善されたと理解する。振り返りのプロセスが機能することが重要。
  - マネジメント層への情報発信は改善されてきたが、それだけでなく社会に向けての情報発信を含めて進めて欲しい。それが人材育成にもつながる。トピックスの情報発信はよくやられているが、それ以外についても、是非情報発信をお願いしたい。
  - 開発成果、開発プロセス等の情報はデータベース化するだけでは駄目で、必要な時に直ぐに出て来る仕組みが要る。どこかに記録が有って、見たらわかると言うのはナレッジマネジメントではない。知識として共有されるようにならないといけない。そういう意味でナレッジマネジメントは大変重要で、是非取り組んでほしい。
  - プロジェクトの進め方はもう少し柔軟性が有っても良い。ある程度検討に区切りがついたら、一旦ホールドし、必要になったらいつでも再開できるような運用も必要ではないか。
  - 今後の技術委員会のミッションは、I D R を横断的にオーバーサイトし、開発全体の中で具体的にどういう方向に進むべきかと言う観点でコメントすることとする。

以 上